

学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容等

1 第3学年及び第4学年の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容

A 表現

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 節奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能

(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

(ウ) 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えること。

本題材で扱う、音楽を特徴付けている要素： 音色 強弱 速度 リズム 旋律 音の重なり

第3学年東組 音楽科学習指導案

学習指導者 溝渕 佳子

1 題材 「飛べ 私の風船 ～『リコーダーは歌う』『シシシでおはなし』『にじ色の風船』～」

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

自分が思い浮かべた様子をリコーダーで表すために、音楽的な見方・考え方を働かせて捉えた曲の特徴を基にして、思いや意図をもって演奏する。そして、互いに演奏を聴き合い、知覚・感受したことを交流しながら、演奏を再考し、より豊かに表そうと工夫し続けている。

本題材において、子供たちは、「ソ」「ラ」「シ」の吹き方を学んだ後、速度やリズム、音の重なり等が様々に変化するリコーダーの鑑賞曲を聴き味わっていく。この鑑賞を通して得た、音楽を特徴付けている要素の知識を生かして、自分の思い浮かべた様子をリコーダーの演奏で表していく。例えば、ゆったりとした曲調の『にじ色の風船』をゆっくりと演奏した後、風船が飛ぶ様子を様々に思い浮かべて伝え合う。空にぐんぐんと上がっていく様子を表したいと思った子供は「速く吹いてみたら、ぐんぐん飛ぶ感じがするよ」と、速度とその働きの視点で捉え、風船がぐんぐん上がるという自己のイメージと関連付けて速く演奏する。そして、工夫した演奏を友達と聴き合い、「速いから、ぐんぐん上がる感じがするね」「ぼくも空に上がっていく風船だけど、リズムを変えたよ。」「リズムを細かくしても、ぐんぐん上がる感じがするね。面白い」などと、友達の工夫と比較しながら演奏を再考し、思い浮かべた様子に合うように速度やリズムを変化させて演奏することの面白さに気付いていく。また、友達と音を重ねることで、「追いかけてっこしている風船みたいにしよう」などと、さらにイメージを膨らませていくだろう。グループで交流しながら、「友達のグループみたいに同じ速さで吹いたら、ずっと追いかけてっこをしている感じにできそう」と、他のグループの工夫と比較し気付いたことを生かして、自分の思いや意図を表すために演奏を再考していく。このような活動を通して、音楽を特徴付けている要素を変化させて演奏する技能を高めつつ、思い浮かべた様子を演奏で表すことの面白さを実感した子供たちは、「もっと工夫して、聴いてもらいたい」「他の音も使って吹いてみたい」などと、より豊かに表そうと工夫を続けていこうとするだろう。

(2) 子供の実態

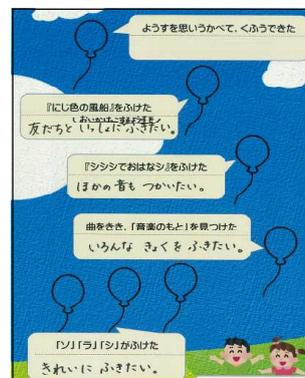
メタ認知に関する実態調査によると、自分の学びを振り返ってメタ認知を働かせることが難しいと回答している子供が35名中18名いるが、この子供たちの多くは自分の考えと友達の考えを比較して聞くことができるかと回答している。教師の日常の見取りから、学級全体に支持的な雰囲気があり、ペアやグループでの活動が有効に作用することが期待できる。

また、教科に関する実態調査によると、演奏技能に自信がなかったり、どのように自分の思いを表せばよいか分からず不安を感じたりしている子供がいることが明らかになっている。教師の日常の見取りから、体を動かしながら活動することを好む子供がいることや、音に敏感な子供がいることが分かっている。

(3) メタ認知を促す働きかけ及び個の気質に応じた支援

① 課題設定以前【わたしの風船】(2～7時間目)

題材を通しての学びが一枚で分かるようにしたワークシートを用い、毎時間、できたことや次にしたいことを記録しておく。それらを基に、授業のはじめに、これまでにできたことを全体で振り返った後、例えば「二つの風船が追いかけてっこしている様子を表したい」のような、前時の終わりに考えた自分の課題を伝え合う。個々の課題を集約し「自分の『にじ色の風船』を工夫して吹こう」と、全体の課題を設定する。このような活動を通して、自分ができるようになったことやまだできていないことを明確にすると、学習課題を設定できるように気付いていくと考える。



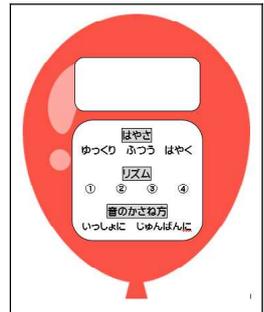
【私の風船】

② 課題解決中【おさんぽタイム】【バルーンルンカード】(6, 7時間目)

自由に動いて友達と演奏を聴き合う時間を設定する。そうすることで、自分や友達の演奏を意欲的に聴

き、自分の工夫を再考する機会となるようにする。また、音楽表現の工夫を、色を使って可視化しながら体も使って交流することで、体を動かしながら活動することを好む子供たちにも有効に働くと考えられる。

演奏を聴き合う際には、様子と工夫を記入したカードを基に工夫が表せているか確かめる。カードに書く内容を様子と工夫に絞ることで、比較する視点を明確にし、子供たちがメタ認知を働かせる機会としたい。グループ同士での交流では、例えば、「追いかけてこする風船の様子を表すには、速くするだけでなく、リズムを細かくしても表せるんだね」などと、友達のグループの工夫と比較し、同じ様子を表しても工夫が違うことに気付いたり、様子は違うのに工夫が同じということに気付いたりするだろう。その過程で、音楽を特徴付ける要素を様々に変化させれば、自分の思い浮かべた様子に近づけることができると気づき、演奏を再考していく。



【バルーンルンカード】

③ 課題解決後【膨らませタイム】【わたしの風船】（2～7時間目）

1時間の学習を振り返り、課題解決ができた理由について話し合う時間を設定する。例えば、「様子に合うように工夫できたか」等の観点を示し、できた理由を「音楽パワー」と、「友達パワー」の二つの項目と関連付けながらまとめていく。「音楽パワー」なら「速さを変えたからできた」、「友達パワー」なら「友達がアドバイスしてくれたから、うまく表せた」のように、課題解決の理由を明確にして伝え合う中で、自分の学びを見つめ直す時間としたい。題材を通してこの活動を行い、友達と伝え合っていくことで、学び方や協働のよさに気付いていこう。また、自分ができたことやできなかったことを基に「他の曲でも速度やリズムを変えてみたい」などと、次の課題を考える時間を設定し記録できるようにする。

2 題材計画（総時数 8時間）

自分の思い浮かべた様子をリコーダーの演奏で表すために、「ソ」「ラ」「シ」の運指やタンギング等の技能をスモールステップで高める。さらに、速度やリズム等を変化させながら工夫を伝え合う活動を繰り返すことで、演奏の技能を高めながら思い浮かべた様子を演奏で表す楽しさを味わえるようにする。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
第一 次	① リコーダーについて知ろう 外部講師を招き、リコーダーの基礎的な知識を学ぶ。様々な種類があることを知り、音色の違いに気付く。また、姿勢や息の入れ方、運指、タンギング等についても教わり、実際に吹いてみる。
	② 「ソ」「ラ」「シ」を吹いてみよう 「ソ」「ラ」「シ」の順で練習し、「穴がうまくふさげない」という困り感を共有した上で、繰り返し練習する。音が出せるようになると、友達の音色や節奏に耳を傾けて、美しい音色や様々な曲への興味をもち始める。
第二 次	③ いろいろなリコーダーの曲を聴いてみよう 『いつも何度でも』『森ひばり』『うそどり』『大きな古時計』を鑑賞し、音楽を特徴付けている要素を基に、それぞれのよさを話し合う。自分たちも、美しい音色でいろいろな曲を吹きたいという憧れをもつ。
	④ 『シシシでおはなシ』を吹こう 友達と聴き合ったり、録音して確認したりしながら技能を高めていく。どのようなお話をしているのかを思い浮かべて伝え合うことで、情景を思い浮かべて演奏することへの意欲を高めていく。
第三 次	⑤ お話しているように『シシシでおはなシ』を吹こう 速度やリズムを変化させて練習し、情景を思い浮かべて演奏する楽しさを味わう。
	⑥ 『にじ色の風船』を吹こう 技能を高めた後、個々に速度とリズムを工夫して演奏し、聴き合う。終末に、複数の風船が一緒に飛ぶ動画を提示することでイメージを膨らませ、友達と一緒に吹いてみたいという気持ちを高める。
	⑦ 自分の『にじ色の風船』を工夫して吹こう （本時7/8） 風船の様子を、グループで速度やリズム、音の重なり等の音楽を特徴付けている要素を変化させることで表していく。友達と聴き合う中で、より自分の思いに合う演奏表現へと工夫していく。
	⑧ いろいろな曲にチャレンジしよう 『なべなべ』等を練習し、情景を表して演奏する楽しさを味わう。他の音も吹きたいという思いを高める。

3 本時について

目 標	自分が思い浮かべた風船が飛ぶ様子をリコーダーで表すために、速度やリズム、音の重なり等の要素を変化させ、友達と演奏を聴き合って、より自分の思いに合う演奏表現へと工夫ができる。
--------	--

学習活動	子供の意識					
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【わたしの風船】	前の時間に見た、風船がたくさん飛んでいる様子を表したいな。 速いのや遅いのがあったよ。 追いかけてっこしていたよ。 自分の思い浮かべた風船の様子を表して吹きたい。				
	自分の『にじ色の風船』を工夫して吹こう					
課題解決中	2 ペアやグループで音の重ね方等を工夫し、演奏する。 【バルーンルンカード】	速度やリズムは考えられそうだよ。友達と一緒に音の重ね方を考えたいな。	速さの違う風船を表したい。僕は速く吹くから、ゆっくり吹いてみてね。	追いかけてっこしている風船を表したい。少しずらして吹こうよ。	いろいろな風船だから、自分の選んだリズムで一緒に重ねてみよう。	
	3 演奏を聴き合い、工夫を比較する。 【おさんぼタイム】 【バルーンルンカード】	一緒に始めたのに、うまく音が重ならないな。歩いて合わせてみよう。	本当に二つの風船が追いかけてっこしているみたいになったよ。	いろいろな速さの風船が空に上がっていくみたいで面白いね。	友達はどうな工夫をしているのかな。 うまく伝わるかな。	
		友達の演奏を聴きに行こう。	友達に聴いてもらおう。	いろいろな風船と一緒に飛ぶ様子だね。	速い風船や遅い風船が飛ぶ様子だね。	追いかけてっこしている風船の様子だね。
		僕と同じで一緒に始めているけど、リズムを変えているね。速い感じがする。	一緒に始めるんだね。速度が違って追いかけてっこしているみたい。	ずらして重ねているから追いかけてこの様子がよく伝わるよ。	僕たちも、リズムを細かくしてみたらどうかね。	順番に重ねたら、友達によく伝わったよ。
	様子が伝わるように、もっと練習しよう。			リズムを細かくしたら、速く飛んでいく様子ももっと表せたよ。うまく演奏できるようになって嬉しい。	順番に重ねると、だんだん音が大きくなっていくから、風船が大きくなった感じもするね。面白い。	
	速さやリズム、音の重なりを工夫したら、思い浮かべた様子が表せたよ。					
課題解決後	4 本時の学習を振り返り、次の課題をカードに書く。 【膨らませタイム】 【わたしの風船】	うまく工夫できたよ。速さを変えて音を重ねたから、うまく表せた。「音楽パワー」は、速さと音の重なり、だね。	一緒に考えたから工夫できた。「友達パワー」は、一緒に、だね。もう少し練習したら、うまく表せそう。	他の曲でも、いろんな様子を表して吹いてみたいよ。	もっと練習して、みんなに聴いてもらいたいな。	
		リコーダーがうまく吹けるようになってきてうれしいな。次も頑張るよ。				

評 価	自分が思い浮かべた風船が飛ぶ様子をリコーダーで表すために、速度やリズム、音の重なり等の要素を変化させて練習し、友達の考えと比較しながら演奏を聴き合うことで、自分の考えを再考し、より自分の思いに合う演奏表現へと工夫している。 【方法：発言・演奏・記述】
--------	--